

会議録

会議体名称	平成25年度 新ホール利用者懇談会(第1回)	
事務局(担当課)	文化商工部文化デザイン課	
開催日時	平成25年8月22日(木) 午後7時～8時30分	
開催場所	生活産業プラザ 8階 多目的ホール	
出席者	座長	佐藤慎也(日本大学理工学部建築学科准教授)
	構成団体	合唱団大塚、南大塚ネットワーク、舞台芸術学院、豊島区邦楽連盟、劇団ムジカフォンテ、豊島区舞踊連盟、美空ひばりフィルムコンサート事務局、豊島区民踊連盟、豊島区管弦楽団事務局、現庁舎周辺まちづくりを考える会、豊島区吹奏楽団事務局
	オブザーバー	有限会社空間創造研究所 所員2名
	区	現庁舎地活用担当課長、生活産業課長、拠点まちづくり担当課長
	事務局	文化商工部長、文化デザイン課長、文化施策担当係長(文化環境整備)、文化施策担当係長(文化環境整備)主任主事
公開の可否	非公開	
非公開・一部公開の場合は、その理由	豊島区行政情報公開条例第7条第5号に掲げる非公開情報に該当する事項について審議等を行なうため。	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会議及び会議録の公開について 2. 新ホールに関連する、現在の区の政策について <ol style="list-style-type: none"> ①区の文化政策と文化施設について ②現庁舎地の活用及び周辺整備について ③新ホールについて 3. 質疑応答 4. 事務連絡 	

<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化商工部長より挨拶 ・文化デザイン課長より、当懇談会の目的とスケジュール説明と配布資料の確認 ・座長紹介 日本大学理工学部建築学科准教授で一級建築士、博士(工学)。劇場やホール、練習室などの建築計画が専門。舞台施設にも造詣が深く、美術・演劇についてのプロジェクトにも多数参加。現在、豊島区と NPO 法人、東京都と一緒に事業を進めている「としまアートステーション構想」(千登世橋教育センター地下)において、ディレクター的役割を務める。 ・各団体からの参加者自己紹介 A 氏:今日は会長が体調を崩したので、副会長の私が伺った。もうひとつ、別の会の活動もしており、8月3日に7回目の盆踊りを西口公園で実施した。5月6日には公会堂で第56回目の大会を行った。 B 氏:当団体は、私が中学校に勤めていた時にできたママさんコーラス。地域に文化を発展させたいという願いでやっている。公会堂が新しくなるということで、是非いい音楽ホールになったらと思い、団長と2人で来た。
--

C氏: 私どもは、1987年に豊島区初の区民参加オペラがあった時の参加者から、継続の要望を受け、当団体を立ち上げた。ミュージカルは大小さまざまな所でできるが、音響やスペースの点でいろいろ構想はある。可能な限り区民の方々喜んでいただけるように私自身も動きたい。

D氏: 当団体は第十中学校の卒業生で発足させた楽団で、創団36周年を迎える。私も卒業生で、今はインスペクターとして動いている。打楽器を使うため2t、4tトラックで移動することから、車入れや舞台についてなど、楽団員からも要望や希望があるので、ここで話したいと思う。

E氏: 当団体は、昭和50年に当時の教育委員会の主管でできたオーケストラ。主な活動は自主公演が年に2回と区民芸術祭の参加公演。成人式は吹奏楽団と隔年で参加。普段は区民センターで練習しているので、この辺の再開発について不安半分と期待半分で非常に注目している。

F氏: 私は長唄が専門で、箏曲が専門の姉と、平成5年に区内在住の邦楽家を募り、当団体を立ち上げた。区立小学校の邦楽鑑賞教室や新年名刺交換会での演奏、昨年のサーフコミュニティの時にも参加させていただいた。子どもたちに少しでも伝統文化に接してもらいたいということで活動している。

G氏: 私は、現庁舎地をいかに豊島区、東京のシンボルにするかについて約1年間に渡り勉強会、検討会等々を行い、今年5月に区長に提言という形で渡した。微力ながら区に対していろいろと助言させていただいている。芸術に係わる皆さん方と一緒に豊島区の新ホールを作っていきたいと思う。

H氏: 当団体は昭和23年創立で65年が経つ。俳優養成のみを目的にどの劇団にも属さない中では世界最古の学校。卒業生に市村正親さんなどを輩出し、現在、国内の主要なミュージカルの主役はうちの卒業生。地区の皆さま方との係わりを模索しながら、お役に立てればと思っている。

I氏: 当団体は、JR大塚駅周辺の活性化を目指すために商店街メンバーで数年前に結成された。都電の沿線にバラを植える活動や東京大塚阿波踊りを主催している。豊島区は文化創造都市だということをもう一度確認しながら、この会に参加したいと思っている。

J氏: この事務局はひばりプロとは別組織で、コンサート関係の実動部隊。フィルムで全国を回って8年、全国の公民館等700から800ヶ所ほど回っている。使い勝手の良し悪しなど会場を見るたび勉強になる。地域の方々に愛される公会堂になるため少しなりとも何かご助言ができればと思う。

K氏: 私たちの団体は今年の春に56周年が終わった。公会堂で長い歴史をもってやってきた。やっと都内で一番誇れる公会堂になるのではと楽しみ。いろいろ意見はあると思うが、やれる時がチャンス。公会堂ができた時のこけら落としには出たいと思っている。

座長: 諸先輩方のいる中での座長ということで大変恐縮だが、専門は建築計画をやっている。豊島区の文化事業「しまアートステーション構想」にも関わっている。劇場というのはそれぞれ専門の演目によりベストな環境が違う。全員の皆さまに対してベストなものができるかは難しいところもあると思うが、地元の皆さんが使って初めて作る意味が出てくる。実際に使う皆さんのご意見を伺って作る必要がある。そういったところのお手伝いをさせていただきたい。

議事

1. 会議及び会議録の公開について

- ・会議の公開及び議事録の公開について審議を行った。新ホール利用者懇談会は、非公開情報にあたる個人に関する情報、また、事業の適正な遂行に著しい支障を及ぼす情報等を含むため、会議は非公開、議事録は一部公開とすることで承認を得た。

2. 新ホールに関連する、現在の区の政策について

①区の文化政策と文化施設について

・文化デザイン課長が、これまでの文化政策と文化施設について説明した。

②現庁舎地の活用及び周辺整備について

・現庁舎地活用担当課長が、現庁舎地の活用と周辺整備について説明した。

③新ホールについて

・文化デザイン課長が、新ホールについて説明した。

3. 質疑応答

座長：先ほど配布した資料のとおり、第2回と第3回で具体的なお意見を伺いたいと思っている。まずはこれまでの説明に対する質問を。

I氏：1,200席のホールということですがかなり固定的に1,200という数字が挙げられているが、これはどのような基準から導かれた数字なのか。

文化デザイン課長：商業や興行利用によって賑わいを創出する、また質の高い文化芸術を提供するとすると、1,200以上は必要ではないかという議論になった。敷地の関係上、それ以上はなかなか難しい。

I氏：1,200席は全部同じグレードか。2階席は少し狭くするとか、そういうことは考えていないのか。

文化デザイン課長：これからまだ検討の余地がある。

I氏：私は1,200では少ないのではないかと考えている。運営方法の中で小中学校の連合行事等もできるとあるが、今、豊島区の小学生全員集めると何人になるか。

文化デザイン課長：1学年が1,100人ぐらいでギリギリだ。1年から6年まで全員を集めてはできない。1学年がやっと入れるかどうかなので、保護者が入ると少々きついのではないかと思う。

I氏：小学校の1学年が全員集まって先生や保護者も入ることを考えると、1,200席はちょっと少ないのではないかという印象だ。もしスペース的にできないのであれば、先ほど言ったが上の方の席を小さくする、あるいはバルコニー的な3階席を設けるとか。最大1,400人ぐらい入るが、普段、興行に使う時にはA席B席とグレード付けをすることで凌いでいくという柔軟な考え方もできるかと思う。1,200という数字が先走っているので、中途半端な数字だと思った。

A氏：成人式に東京芸術劇場を借りることは本当に惜しい。やはり区の施設で成人を迎えてもらいたい。

文化デザイン課長：豊島区で成人される方は毎年2,000人ぐらい。そのうち45%、約950人が式に出席する。東京芸術劇場のコンサートホールは1,999席なので、ご兄弟、ご両親などご家族も案内できる。せめて成人式は自前のホールでできるようにしたいということは、区長の強い希望だ。

K氏：ここには花道も付くのか。これからできる公会堂なら、やはり東京一のものにしてほしい。後ではどうにもならない。歌舞伎や大きなお芝居もできる公会堂にしてほしい。花道を取り外し式にして全体で使えるようになっていてもいい。

文化デザイン課長：いろいろなジャンルの方がお使いになるので、花道を仮設にするなどの検討はできると思う。

K氏：「北とぴあ」は横に花道がある。そうすると大きい踊りができない。やはり全部通してしないといけない。花道は普段使わないと外せる。歌舞伎座まで大きくというわけにはいかないが、やはりある程度のものである。照明もそうだができる限りのことはしていただきたい。

A氏：商業演劇に使えるのには1,200席だと厳しいのではないか。もっと席を増やす方向にならないのか。

座長：敷地を目一杯使う。その中での検討になる。

K氏:商業演劇するには、1,200席では小さい。

座長:現状と同じところに建つので、層を重ねていくことである程度の席数は増やせると思うが、限界はある。

I氏:演劇や舞踊とか興行系の話が出ているが、音楽団体の方たちはどのようにお考えになっているのか。例えば音響反射板が出し入れできたりするのかなどが気にならないか。

E氏:一応、オペラ(に対応できる)と書いてあるので、当然あるだろうなと思っている。

J氏:本格的に芝居を上演するホールと吹奏楽は、根本的に違う。全国の公民館・公会堂みんな中途半端だ。音楽でもジャンルによって全く違う。新しい演劇をやる人は必ず演出効果で映像を使うし、踊りは昔なら2,3人で踊っていたところ、大掛かりに踊る人も増えている。絞り込まないと、設備が無駄になる。花道を作ると、照明はどうするのかという話になる。すごく立派な施設で映像機器も立派なのに使えない会館はたくさんある。だから、よほどコンセプトを絞り込まないと難しいのではないかと思う。

B氏:多目的ホールではなく、もう少し的を絞りたいと思う。せつかくこの文化創造都市のシンボルとなる1,200席ホールができるので私たちもすごく喜んで期待している。私たちがやっている西洋音楽ができるところが欲しい。邦楽と西洋音楽が両方できる良い方法は何かないか。例えば4階は邦楽ができるホールで1・2階は洋楽で、など。どれもこれも一緒では、すごく中途半端で難しくなるのではないかと思う。音楽では残響がすごく大事だが、残響音が西洋音楽の場合と邦楽の場合と違うかもしれないので、多目的ホールにしないでいただきたいというのが私の希望だ。

F氏:楽屋が非常に大事だ。国立劇場や東京芸術劇場、紀尾井ホールは、舞台と同じ平面に楽屋がある。高価な楽器を運ぶので、それが非常に使い勝手が良い。豊島公会堂は楽屋が地下で、急な階段で移動しなくては行けない。天神(三味線の一番上の部分)を折ったら何百万円もする三味線も使えなくなってしまうので、地下から舞台へ行くのにドキドキする。それから是非作ってもらいたいのが親子室。日本橋公会堂にある親子室は、ガラス張りの室中で親子が大きな声で話しても全然音が外に漏れない。いつも満員だ。小さなお子さんがいる若いお母さん達にも楽しむ機会を与えたい。あと、あうるすぽっとや他区の施設でも、舞台の袖が狭い所が多い。舞台袖が広いと演奏家はとても使いやすい。

E氏:この1,200席ホールの位置づけとして「大きな回遊性を生み出す拠点」と書いてあるが、この言葉の意味をお聞かせいただきたい。

文化デザイン課長:先ほど、街づくりの計画との兼ね合いについての話になったが、現在池袋駅を降りるとサンシャインシティの方向に7割のお客様が流れている。豊島区は広くまとまった土地が取れないので、現庁舎が新庁舎に移ることにより、劇場だけではなくまち全体に人が回遊する形、ここだけで留まるのではなく池袋全体に人が賑わうような形にしたいという意味だ。

F氏:商業地と結びつくというのが解せない。上野には美術館やそういう文化施設がたくさんある。池袋は無理かもしれないが、例えば美術館を作るという考えがないのかと、ちょっとがっかりした。

文化デザイン課長:美術館は、旧平和小学校の跡地に今整備している西部複合施設という中にミュージアムが入る。池袋モンパルナス、トキワ荘のことなど文学・マンガ分野と美術分野が2階に入り、下が図書館、上が地域文化創造館という計画だ。学校の跡地をミュージアムに活用するが、広い土地がないので、劇場や美術館などいろいろな施設がある上野のような形はなかなか難しい。

現庁舎地活用担当課長:あまりお金のことを言うのも何だが、区が使う部分は6,000㎡に抑えていきたい。それ以外の所は民間の方で活用していただきたい。確かに美術館や公共施設を作りたい意向はあ

るが、その中でバランスを取りながら、なんとかやっていきたい。

F氏：駅と地下道で結ぶとか、そういうのは考えているのか。東京芸術劇場は地下からそのまま行けるのがとても便利だ。

拠点まちづくり担当課長：G氏の会の中でも、地下道は提言に盛り込まれている提案の一つである。ただ、地下道は駅から目的地に直接行ってしまい、地上の商業が衰退してしまうという懸念もあり、賛否が分かれるところである。また、物理的にできないルートもある。今回この地域については土地を大切にす。池袋駅東口から出た人の7～8割がサンシャイン60通り方向に行っており、南北区道に流入する車をある程度排除して、あの賑わいを北上させ、こちらに持ってくるのが最大の狙いだ。今のサンシャイン60通りの賑わいをなんとか持って来るためにも、地下よりも地上を歩いてもらうという視点で計画している。

A氏：商業が栄えなかったら意味がない。商業地が建物の中にあるというのは賛成だ。劇場の下に商業があれば、食事したい時は外に出なくてもいいのだから。その分、場内が目一杯使えて座席数が増えることが望ましい。

座長：終了予定時間が過ぎているので、お話ししていない方をお願いしたい。

G氏：私どももこの現庁舎の跡地の件でいろいろ議論してきたが、結局は池袋が商業の街とうたわれているので人を集めなければどうにもならない。せつかく駅から2,3分の所にある場所に、ただ単にホールだけではどうなのかと思う。私はむしろこの全館を、ホールは別にして、それ以外のものは商業にどんどんチェンジしたらどうだという話しをした。私たちの会で議論し合った、その再来という感じで皆さんのご意見を聞いていたが、それぞれ考え方も目的も違う。このスペースでは、全部の演芸等々をここで網羅して使うことはできない。本当に中途半端なホールしかできない。基本的に商業の街なので、ここに飲食があり美術館があり人が集まるという形を最終的に取らざるを得ないのではないか。

座長：では、まだいろいろご意見があるかと思うが、時間も過ぎているので、また第2回、第3回の中で資料もご覧いただき、ご意見ご質問をいただければと思う。

それでは、本日の懇談会はこれで終了とさせていただきます。

4. 事務連絡

事務局より、以下2点について連絡した。

- ・議事録の内容確認について
- ・次回以降のスケジュールについて

閉会

配布資料

【資料1】豊島区新ホール利用者懇談会設置要綱

【資料2】今後のスケジュール

【資料3】構成員一覧

【資料4】「としまの文化デザイン」

【資料5】現庁舎地の活用及び周辺整備について「街が変わる 街を変える」